

Growing

Vol.33

 May
2015

毎月10日発行

【今福教室】城東区今福西2-9-20 TEL.06-6934-4662
 【諸口教室】鶴見区諸口4-14-9-1F TEL.06-6912-3984
 【今津教室】鶴見区今津南1-6-2-1F TEL.06-6167-9722

【今福第2教室】城東区今福西2-16-8 TEL.06-6931-2000
 【関目教室】城東区関目4-16-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
 【古市教室】城東区古市3-21-8 TEL.06-6931-0467

4月18日(土)に第3回教育講演会を行いました。今回は私、高木秀章が講師を担当いたしました。『入試制度変更で、生徒評価はこう変わる。～高校・大学入試につながる、これからの傾向と対策とは』という硬いテーマにも関わらず、200名定員に対し240名以上の方にお申し込みをいただき、また当日はお父さんの参加も目立ち、生徒・保護者の方々の意識の高さを強く感じた教育講演会となりました。生徒の皆さん、保護者の皆様方、お休みの日にも関わらず、ご来場くださいましてありがとうございました。また人数制限でお断りをした皆様、申し訳ございませんでした。

では簡単に、今回の講演会内容をお書きします。

まず、今年度入試制度の変化を、①調査書評価が相対評価から絶対評価に変わる ②公立入試が統一テストになり同一校内の複数志望を認める ③公立入試の出題傾向が変わるという3点から説明しました(公立入試の変更点3点については別紙資料「公立高校入試制度変更点について」をご参照ください)。絶対評価に移行することで、全体的に内申点を取りやすくなり、**内申点では差がつかず、本番のテスト重視になります。**また、今まで公立入試は前期テスト2種類、後期テスト2種類、合計4種類のテスト問題で合否判定をしていましたが、新制度では前期テスト・後期テストが統一され3種類のテストで合否判定をすること

になり、**1種類のテストで合否判定する生徒レベルの幅が広がります。**よって、上位校を狙う生徒にとっては、ミスのない答案を作りつつも**30%程度になる**

と予測されるハイレベル問題に対応できる、高性能で「知識の活用力」を問う新しい問題傾向に対応する多機能な学力が必要となります。

今後の入試問題の傾向を体感していただくために、平成29年度のリスニング問題を体験していただく場面があり、その難しさに会場がどよめきました。急速なグローバル化が進む社会において、もはや英語は待ったなしの状況です。また、子供達がこれから生きていく社会は、グローバル化だけではなくテクノロジーの進歩を伴います。テクノロジーの進歩で様々な物事が自動化することで、現在の職業の多くが姿を消し、新たな職業が生まれ職業は急速に多様化していきます。**子供達は世界に出て、まだ見ぬ新しい仕事に適応して生きていかなければなりません。**そのための若者を育てるための教育改革がまさにスタートしたといえます。

講演会の中では、この後、このような教育制度に対応するために必要な「高性能で多機能な学力」をどのようにして身に付けるのかという具体的な話をし、最



今回の講師は塾長・高木！



熱心にメモを取る参加者の皆様。ありがとうございました！

後に教育改革により危機を乗り越えてきた日本の歴史を、明治維新や太平洋戦争などの例を見ながら考えていきました。

内容的に、正直、退屈なところもあったのではと思いますが、多くの保護者の方や生徒達が熱心にメモを取ったり、うなずきながら聞いていただいている姿がとても印象的で、とても勇気づけられました。

生徒の皆さんにとっては、これから来るであろう未来に関してのお話で、思わず耳を塞ぎたくなる内容だったかもしれませんが、これからの社会を生き抜くために、知っておかなければならない内容であったと思います。「大変そう」と悲観的に捉えるのではなく、**世の中の動きや流れを知ることで、今の自分が少しでも変わるなら、将来は大きく変わります。**皆さんは素晴らしい可能性の塊です。そんな皆さんの可能性を大きく広げられる学習塾になっていけように精一杯頑張っていきたいと思います。

(塾長 高木)

～今月の話題～

第3回教育講演会を実施しました。



教室レポート

パスカル☆キッズ上本町教室



ついにパスカル☆キッズ上本町教室が開講しました。この教室では今福・関目・諸口・今津教室と同じ年長～小3までの能力開発クラスに加え、年少さんからの小学受験クラスを新しく開講しました。有名な某幼児教室の立ち上げや数々の有名小学校に合格させてきた経歴28年のベテラン講師・山内先生を迎え、4月から数名の生徒が通い始めています。

大手の幼児教室が立ち並ぶ上本町、教室は一味違います。本や百科事典がどっさり入る背の高い本棚と新刊が見やすい絵本ラックを設置。じゅうたんはオレンジ色で教室は可愛らしく明るくしました。また集中力を高め落ち着かせる青色の効果と、リラックス作用があり穏やかな気

持ちにさせてくれる緑色の効果を生かした絵画も飾られ、机と椅子は幼児用で小さい子でも地面に足をつけて正しく座れる高さになっています。授業の教材も、小学受験の指導を長年やってこられた山内先生の豊富な経験と確かな情報を元に作成しており、教材で最も重要となるイラストは美術専門学校へ通っているカイチ卒業生に担当してもらい日々教材作成に追われています。授業時間も小学受験年長クラスは90分、能力開発クラスは70分とけっこう長いのですが、どの生徒も集中力は途切れず、楽しみながら授業を受けてくれているのがよくわかります。今日も能力開発クラスを終えた1年生の男の子が「さようなら」と挨拶を終えドアを閉めた後、廊下で「今日も楽しかった!」とお母さんに話していたのを聞いてとても嬉しく思いました。

私たちは幼少期の教育がとても重要で

あると考えています。福沢諭吉は「家庭は習慣の学校である」と説いています。幼少期の習慣（生活・行動・思考など）が子供達の将来に及ぼす影響は大きなものです。大切な時期の子供達の指導をさせていただく中で、大手の塾にはできない、保護者の方と生徒に家族のように親身に寄り添い、共に成績向上、有名小学校合格を目指していきたいと思います。(マナロ)



学習のコツ

受験生の1学期の重要性



中3生の皆さんは部活の最後の大会が近づき、頑張っていることでしょう。しかし、3年生の皆さんは「今年受験生」ということもまた事実。勉強ももちろん忘れてはいけません。現在は1学期なので「まだ時間がある」と思っている人もいますが、実は受験勉強をする時間はさほどありません。2・3学期は塾、学校ともにテストが続き、受験生たちはそこで受験校がほぼ決まってしまう。

右の表に載った月は学校のテスト勉強に集中しなければなりませんし、2月や3月は受験の直前で特別な対策をしないといけません。また内申点（通知表）の制度が相対評価から絶対評価に変わること、内申点を取ることが容易になり、志望校に対する内申点のクリアは受験校合格への必要最

低条件となります。今年度はより入試本番の得点重視になることが予測されます。ですから、まだ比較的時間がある1学期のうちの中1・中2の各単元内容の学習を盤石しておかないと、夏期講習からの複合形式の演習には対応できず、2学期からのテストラッシュで結果を出すことが難しくなります。また、2学期に中学3年生対象で実施される大阪市統一テストでは、テスト結果により大阪市内上位7%に「5」、31%に「4」、69%に「3」を与えることが発表されています（絶対評価は5段階評価です）。

1学期から学習をしっかりと進めることで

	学校行事	当塾行事
5月	・1学期中間テスト (中旬～下旬)	
6月	・第1回実力テスト ・1学期期末テスト	2学期中の実力テストの1つで大阪市統一テストを実施予定
9月	・第2回実力テスト	
10月	・第3回実力テスト ・2学期中間テスト (中旬～下旬)	・五ツ木模擬試験
11月	・第4回実力テスト ・2学期期末テスト	・五ツ木模擬試験 ・第5回進研模試
1月	・第5回実力テスト ・学年末テスト(下旬)	・冬休み(1日～3日) ・冬期講習(4日～7日) ・第6回進研模試

2学期の結果につながります。塾の宿題を丁寧にすれば最低2時間はかかるはずですが、塾のない日でも2、3時間の学習時間を確保して下さい。今の受験の仕組みをよく理解して、その上で学校と塾の勉強にしっかり取り組むことが大事です。(川西)

カイチの教育

全国学力テストから見る、今後の入試問題傾向について



4月21日(火)に小学6年生と中学3年生を対象に全国学力テストが行われました。全国学力テストは、近年、学力低下が問題視され、2007

年から文部科学省が実施している学力・学習状況を調査するためのテストです。全国学力テストは、国が子供達の学力を測る意図で作成しているテストですから、そのテスト内容を分析することで、国が求める子供達の学力像とこれからの入試問題傾向を知ることができます。今回は紙面の都合上、中学3年生の問題解決能力を問うB問題の中から特徴的な問題を抜粋してみました。

図1(国語)の問題では次の力が求められています。①目的に応じて文章を要約する力。②文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け要旨を捉える力。③複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く力。

私たちの周りには、様々な情報があふれています。それらの情報に対してあらかじめ目的を持って接することもあれば、多様な情報に触れながら問題意識を持ったり新たな発想を得たりすることもあります。変化の激しいこれからの社会を生きていく中学生には、後者のような情報活用の能力も重要です。資料を読んで、書かれている内容を正確に理解することに加え、複数の資料を取り上げて、2020年という近未来の日本の社会を予想し、その社会への自分の関わり方を具体的に書くことを求めています。

図2(数学)の問題では、資料に基づいて不確定な事象を考える場面で次のような力を聞いています。①必要な情報を適切に選択し判断する力。②事象を数学的に解釈しその根拠を数学的な表現を用いて説明する力。

実生活の場面では、情報を適切に読み

国語B② 情報を関連させて読む(2020年)

国語B② 情報を関連させて読む(2020年)

① 次の資料は、「入試問題の傾向」として、国語B②の問題を構成する「国語B②」の資料として用いられている。この資料は、2020年(令和2年)の国語B②の問題を構成する「国語B②」の資料として用いられている。この資料は、2020年(令和2年)の国語B②の問題を構成する「国語B②」の資料として用いられている。

生活を支えるロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支える移動型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港での荷物搬送などに使われている。現在、日本では、「生活支援ロボット」の開発が行われている。中でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける移動型ロボットの開発が進んでいる。また、高齢者の生活を支援する「介護型ロボット」も開発されている。これらは、高齢者の生活を支えるためのロボットである。身体機能の回復のためリハビリテーションなどで広く導入されているが、今後は、足腰の弱い人の歩行支援、車いすの操作支援、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、目覚まされてきている。

介護型ロボットの例

移動型ロボットの例

介護型ロボットの例

取ったり、情報を基に判断の理由を説明したりすることが求められる場合があります。1回目と2回目の落とし物調査の結果を、表とグラフを基に比較する場面において、平均値だけでなくグラフを見ることにより「1回目より2回目の方が落とし物の状況がよくなった」とは言い切れないことについて、数学的表現を使い論理的に説明する設問を設けてあります。

これら2題を見ただけでも、生活の中で知識を活用し問題を解決する力が求められていることがよく分かります。そして、このような問題傾向がすでに今年度の入試問題の中にも見られます。そのような意味では、全国学力テストの問題をしっかりと復習することは大切です。分からないところは質問に来るようにして下さい。

このような問題に対応する力は、単に問題集の問題を解く学習だけでなく、生活経験の中での「どうすればよいのか」(問題意識)「なぜそうすべきなのか」(論理性)という対話の中で育まれます。そのように考えれば(もちろん私もですが)親子のコミュニケーションのあり方も考えなければならぬかもしれません。また、問題解決型

図2

⑤ 調査委員会では、落とし物を減らすために、全15学区で落とし物調査を行うことになりました。調査員は同日2回行ったところで、新田さんと渡辺さんは、その結果を表とグラフにまとめました。渡辺さんが作ったグラフでは、例えば、落とし物の総数は12個以上15個以内だったと記載が、1回目、2回目とも15個ずつあったことを表しています。

新田さん「落とし物の合計の平均値が20.3個から19.3個に減ったから、1回目より2回目の方が落とし物の状況はよくなったね。」

渡辺さん「でも、平均値だけで判断するのはおかしいよ。グラフを見ると、渡辺さんのように「1回目より2回目の方が落とし物の総数は減った」とは言い切れないよ。」

グラフを見ると、渡辺さんのように「1回目より2回目の方が落とし物の総数は減った」とは言い切れないよ。」

渡辺さんが作った表

項目	1回目	2回目
支店	201	212
ハンパチ・タオル	49	28
その他	55	50
落とし物の合計	305	290
落とし物の合計の平均値(15学区あたりの落とし物の個数)	20.3	19.3

渡辺さんが作ったグラフ

の問題は、全教科において必ずその問題の中に答えがあります。解法のコツについては、塾で学び身に付けてくれればと思います。

子供達にとって問題難易度の把握はとても難しい作業です。なぜなら、子供達は自分の学力を基準に「できる問題」「できない問題」のレベル分けを行いますので、できない問題の中で、「できなければならぬ問題」と「できなくてもよい問題」の区別ができません。実は受験に合格するためには、入試問題を解く上でも、受験勉強をする上でも、できなければならぬ問題とできなくてもよい問題を理解し取り組むことが、とても大切になります。ですから、学習指導を通じて、生徒達に問題レベルの把握を促す指導を行うことも、私たち講師にとって大切な役割だと考えています。(塾長 高木)

コラム

先生紹介

4月からパスカル☆キッズ上本町教室で小学受験クラスを担当させていただくことになりました、山内昌子です。

私は子供の頃から、学校の先生に憧れていました。中学、高校では運動クラブや自治会などで忙しく、夢を忘れたこともありましたが、大学に入って進路を考えた時、学校の先生しか考えられ

ない!と思い、遅ればせながら小学校の免許を取得しました。そして夢を追いかけ、辿り着いたのが小学校受験の先生です。

私はおよそ28年間、小学校受験の仕事に携わってまいりました。大阪だけではなく、京都や兵庫そして奈良の私立小学校、更にそれぞれの附属小学校に合格するためのノウハウは身に付けたつもりです。小学校受験に関してはかなりの自信がありますので、小学校受験を無理なく、希望される小学校に合格していただけるように、尽力させていただきます。幼児

の受験ですので、無理は禁物と考えています。メンタル面をしっかり考え、本人にとってもご家族にとっても「受験して良かった!」と言ってもらえる小学受験クラスにしたいと思っています。よろしく願いいたします。(山内)



小田のちょっとイイ話



諸口教室の個別クラスでは、山田先生と安積先生という2人の大学生が指導に当たっています。山田先生も安積先生も、僕にとって自慢の教

え子です。山田先生はとにかく生徒対応が丁寧で熱心な先生。昨年の個別クラス立ち上げの時から指導に入っていて、一人一人の性格や学習状況を把握しながら指導に当たってくれています。諸口教室の坪田先生や高木先生、そして生徒からの信頼も絶大で、個別クラスには欠かすことのできない先生です。



安積先生はこの4月に大学に入学。将来の夢は小学校の教員で大学に入学した直後からカイチで働いてくれています。働いて間もないですが、若さもあって動きも俊敏。いい先生になると期待しています。生徒達もそんな2人の先生達に必死でついていこうとしています。映像授業を見た後に問題を解く時間があるのですが、分からないところがあればすぐに先生に質問して解決しようとする。先生と生徒が一体となって頑張っている、そんなクラスです。

この間、教室でこんなことがありました。ある一人の生徒がどうしても英単語や英文法が覚えられない。僕や他の先生も分かるまで必死に居残りで指導していました。でも、何度やっても覚えられないので、生徒本人も英語の勉強がしんどくなってきていました。そんな日が続いていた時、山田先生や安積先生が授業後に「どうすればできるようになるか」を熱心に話し合い、自分達で考えた方法で生徒にアプローチ。そうするとあれほど苦労していた英語が少しずつできるように。そして、一番驚いたのはその生徒の表情の変化です。



英語が全く分からなかったときと今では全く違うのです。笑いながら帰っていく生徒の姿を見て、これが「教えることの素晴らしさ」なのだを再確認しました。分かるようになった生徒も素晴らしいし、生徒をそうさせた若い2人の先生も素晴らしい。こういうしっかりした若い先生と働くことができ、しかもそれが自分の教え子なんて、本当に講師冥利につきます。

一人でも多くの生徒の成績を上げることができ、笑顔を見ることができるようこれから頑張りたいと思っていますし、共に頑張りたいと思います。(小田)

カイチからのお知らせ

■5月中旬より各中学で中間テストが実施されます。それに伴い塾内では4月下旬より定期テスト対策を行っております。お客様の学習の様子に不安がおありになる時は各教室にご遠慮なくご相談ください。

■5月9日・16日(土)は中学生対象で9時間自習を13時～22時で行います。定期テストまでの最後の追い込みをみんなで頑張りましょう。 ※学校により9時間自習日は異なります。

公立高校入試制度変更点について

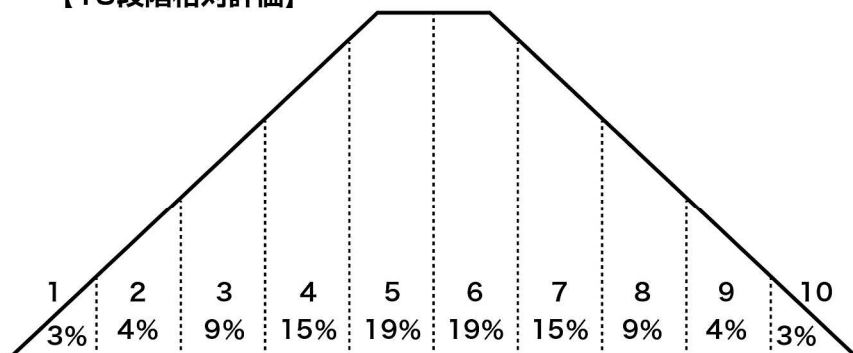
ポイント
1

調査書評価が現中学3年生より 相対評価から絶対評価へ変わります。

相対評価とは？

全体の位置での評価です。学年を100人とする、10は3人、6は4人というように、その評価が受けられる人数が決まっており、全体のレベルが高ければ評価が厳しくなり、全体のレベルが低ければ評価が甘くなります。

【10段階相対評価】



絶対評価とは？

学習の達成度での評価制度です。

下図のようにテストの点数などの達成度で評価するため、例えば、下の表では学年全体が80点以上ならば全員が5になることも考えられます。

点数	評価
100点～80点	5
79点～60点	4
59点～40点	3
39点～20点	2
19点以下	1

今年度からの大阪府の絶対評価は？

下図のように成績上位31%を5（今までの相対評価では7%）、38%を4（今までは24%）と、一定割合で評価が分かれます。さらに大阪府に関しては中学3年生2学期に行われる大阪府統一テストにより大阪府内の上位7%には5が、上位31%には4が上位69%には3の評価が必ず与えられるようになります。

		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
(今まで)	相対評価	3%	4%	9%	15%	19%	19%	15%	9%	4%	3%
これから	評価分布 (標準)	5			4			3	2	(1)	
		31%			38%			24%	7%	(3%)	
統一テストの活用		5		4		3					
		7%									
		31%									
		69%									

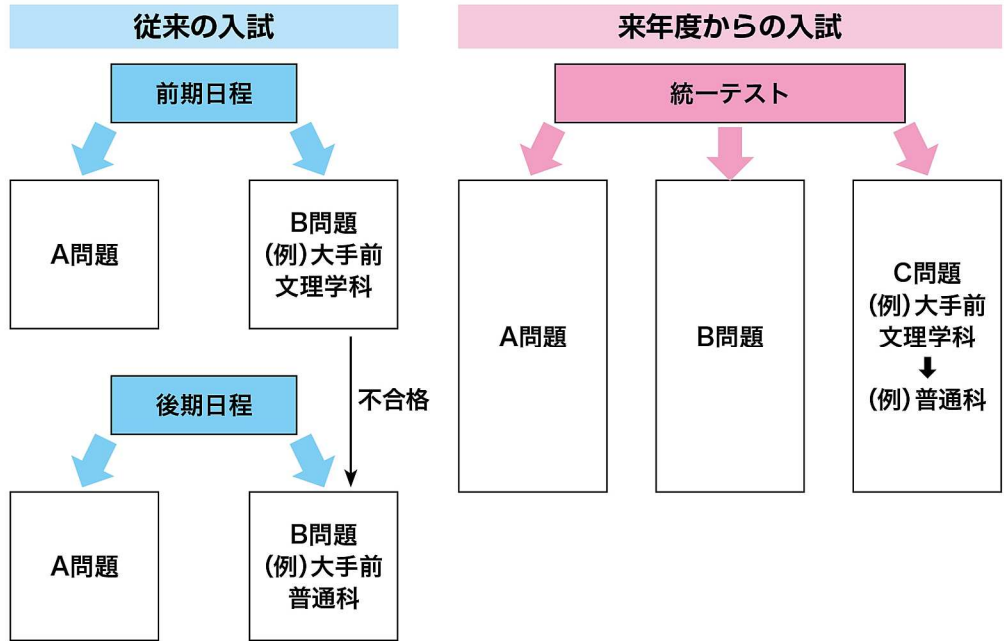
新しい評価制度では10段階評価から5段階評価となり、今までの10や9の評価にあたる5や8,7の評価にあたる4の割合が増えるため評価は高止まりすること考えられます。

現中学3年生は中3の評定のみを評価/現中学2年生は中3と中2の評定を2:1で評価/現中学1年生は中3、中2、中1の評定を2:1:1で評価します。

ポイント
2

公立入試は統一テストになり、同一校内の複数学科志望を認めます。

従来入試では、前期で不合格の場合は後期入試を受験しましたが、新しい入試制度では、統一テストとなり、同一校内で複数の学科を志望することができ、点数上位から上位の学科合格を決定していきます。



また、従来は前期2種類、後期2種類の合計4種類の入試問題で合否を決めていましたが、統一テストになることで3種類の入試問題で合否を決めることになり、1つのテストで合否判定する生徒レベルが幅広くなり、入試問題のレベル構成が変化することが考えられます。

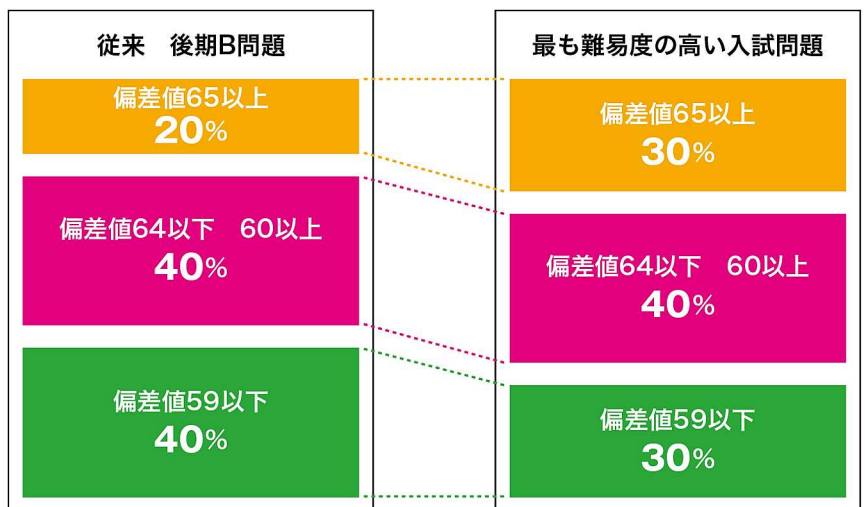
ポイント
3

公立入試の出題傾向の変化が予想されます。

問題のレベル構成の変化

統一テストの最も難易度の高いテストは、偏差値60台の学校から偏差値74の北野文理学科の合否を決定しなければならないことで、点数差をつけるために難易度の高い問題の割合が増加する可能性があります。

従来前期日程の文理学科入試では、全体的に問題のレベルが高く、その分合格点が低くなっていたことで、自分の得意箇所を確実に得点することで合格点に到達することが可能でした。また、後期入試は逆に、問題が易しくミスなく点数を取る力が求められる傾向にありました。



新しい入試では、ミスのない答案を作成することは最低条件となり、わずか30%程度になると予測されるハイレベルな問題に対応できるかが大きなポイントとなります。

また、2020年からの新しい大学入試制度に対応し記述・活用型（問題解決型）の問題傾向が強まり、教科や分野を横断した問題が出題されることが予想されます。